

ACC021-P10

会場:コンベンションホール

時間: 5月27日17:15-18:45

## GPSブイを使った白瀬氷河氷舌の流動モニタリング

### Monitoring the flow of ice tongue of the Shirase Glacier using GPS buoys

青山 雄一<sup>1\*</sup>, 土井 浩一郎<sup>1</sup>, 渋谷 和雄<sup>1</sup>

Yuichi Aoyama<sup>1\*</sup>, Koichiro Doi<sup>1</sup>, Kazuo Shibuya<sup>1</sup>

<sup>1</sup>国立極地研究所

<sup>1</sup>National Institute of Polar Research

白瀬氷河末端、リュツォ・ホルム湾に突き出した氷舌は、過去に幾度か分離し、流れ去ったことがある。このような劇的な変動も含め、白瀬氷河氷舌の変動をモニタリングするため、イリジウム漂流ブイ(ゼニライトブイ社製)2台を氷舌上に設置して、ブイの位置の連続観測を行っている。イリジウム漂流ブイは、直径30cm、重量5kgのブイの中に、太陽電池パネル、バッテリー、1周波のGPS受信機が組込まれており、設定した時間間隔で緯経度を測定して、その値をイリジウム衛星データ通信を介して国内に伝送する観測システムである。漂流ブイは設置用の基台に取り付け、吹雪などで飛ばされないようにしている。昭和基地周辺で、簡単な位置測定精度検証実験を行った後、2010年2月5日に、第51次南極観測隊の協力により、白瀬氷河氷舌末端、漂流ブイ2台を設置した。順調にデータが送られてきており、氷舌の流動の傾向が見られている。本講演では、得られたデータから、白瀬氷河氷舌の流動に関して定量的な議論を行う。

キーワード: GPSブイ, 白瀬氷河, 氷舌の流動

Keywords: GPS buoy, Shirase Glacier, Monitoring the flow of ice tongue